

第8回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日 時：令和8年3月19日（木）
14時00分～16時00分
場 所：常滑市役所1階 会議室H

1 開 会

2 議 事

(1) 基本理念について

事務局より 資料1 に基づき、基本理念について説明

(山田朝夫 委員長)

- ・前回の委員会で、基本理念の事務局案への加筆・修正を豊田委員へ、依頼し、本日、修正案を紹介した。どのような思いで修正いただいたかポイントをお話いただければと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・事務局案を基本としつつ、柔らかさや読みやすさ、また、前回、ほか委員の方からいただいた意見を、何とか短い言葉の中で表現できないかと考え、この基本理念とした。
- ・図書館であるので、知識を深めることや、若い人からお年寄りまで全ての世代の人の成長を促すこと、また、今後、さまざまな課題が出てくるだろう地域について、地域同士を繋ぎ、未来の世代へと繋いでいく、そんなメッセージを込めて表現した。

(山際史子 委員)

- ・思いが込められた言葉になり、さすがだなと思った。
- ・基本理念に「知をひらき」とあり、本文の下から4行目では、「「知」に触れる機会をひらき」とある。言葉が似てしまっているため、本文の方を「機会を提供する」など、そのような言葉になると良いなと思ったがどうか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・基本理念にある「ひらく」という言葉には、多様な意味を込めているため、本文を修正するのが良いかもしれない。また修正案を考える。

(山田朝夫 委員長)

- ・山際委員から意見のあった部分については、また豊田委員と事務局で検討して修正をお願いしたい。

(土方宗広副委員長)

- ・本文の中で「図書館」という言葉が出てくるが、市民がこれを読んだ時に、これを、新しく整備する図書館と捉えることもあれば、既存の図書館と捉えることもあると思う。

(事務局)

- ・本文の冒頭にある「図書館」は「ワークショップを開催した」にかかっているので、新しく整備する図書館を指して書いたが、それ以外については、今ある図書館を良いものにしたいという思いも込めている。

(土方宗広副委員長)

- ・既存の施設を残すことになったとき、それらについて、基本構想に沿って行うことが何もないと思われまいだろうか懸念した。常滑市は南北に長いので、どこに住んでいる人にとっても平等の図書館であるべきならば、行政として、既存の施設についてもきちんと投資すべきであることを確認したかった。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分も「図書館」という言葉には、既存の施設も含まれていると認識している。

(山田朝夫 委員長)

- ・市民ワークショップは「新しい図書館を作りたい」ということで始まったが、新しい図書館だけの問題ではなく、今ある既存の図書館と繋がっていたり、あるいは学校図書館も含めて「図書館」ではないかという理解が深まったと思う。もし自分が修正するのであれば、2つ目の図書館には鍵括弧を付ける。

(土方宗広 副委員長)

- ・この基本構想は、新しく整備する図書館法上の図書館だけでなく、常滑市に存在する全ての図書館を含めているという共通理解が、委員会の中でもされているようで安心した。

<進行の都合により、議事の3点目を先に行った>

(3) 基本構想（素案）について

事務局より 参考資料1 に基づき、基本構想の素案について、追加事項（資料では下線で表示）を説明

- ・第2部－第2章の「第2節 調査結果の概要」に「5 図書館市民ワークショップ」を追加し、開催概要や、メンバーから出た当日の意見などをまとめて記載した。
- ・第3部－第2章の「第1節 常滑市の財政状況」の数値について令和6年度決算のものに改めた。
- ・前回、民間資金の活用などの意見があったことから、第3部－第3章の「第1節 事業手法の検討」に「1 想定される事業手法」を追加し、民間のノウハウや民間資金を活用する事例を整理した。
- ・第3部－第3章の「第3節 事業化の課題」に、サービスポイントを増設している事例や、その他の負担軽減案、また運用面の充実の事例として、連絡便の体制やアウトリーチ活動、地域資料の活用、図書館の評価などを追加した。
- ・第5章「策定委員会からの提言」については、前回の委員会の意見をもとに修正した。

事業化の課題（第3部－第3章－第3節）

（中井孝幸 委員）

- ・滋賀県東近江市の図書館の事例については、あくまで「積極的収集分野」として特徴を持たせているものであり、この資料だけを集めているわけではないことを補足しておく。
- ・大阪府寝屋川市の事例だが、図書館の職員ではなく、シルバー人材センターを活用して連絡便の体制を整えている。

（山田朝夫 委員長）

- ・東近江市は、本館はあるのか。

（中井孝幸 委員）

- ・合併してできた自治体のため、それぞれの市町が図書館を持っていた。八日市図書館が最も規模が大きいのが、本館と位置付けられるものがある訳ではない。

（山際史子 委員）

- ・常滑市では、現在、図書館の職員が火曜日と金曜日に連絡便を走らせているが、図書館としては、予算さえ付けてもらえれば、もっと各学校に本を送りたいと思っている。
- ・シルバー人材センターだと個人情報の扱いが問題になるのが少し気になるがどのような運用なのか。

（中井孝幸 委員）

- ・学校の先生にも他の生徒にも、どんな本を借りたかが分からないように配送されている。返却も返却ポストに入れるだけである。

(井村美里 委員)

- ・こういった委員会では、どうしてもハードの整備に注目がいつてしまいがちだが、整備された施設を「誰がどうやって使うのか」が、一番重要だと考えている。資料にも書いてあるとおり、整備するまでの間に、運用の面ですぐにでも始められることが多くあるので、そういった視点で、これらの事例を見ていただくと良いと思う。
- ・アウトリーチ活動の中にも書いてあるように、ワークショップの時に、会場の外に本が置いてあった。図書館に行かなくても、身近な所に本に親しめる環境があることは、とても素晴らしい。
- ・地域資料についても、常滑市のことが良く分かる場所となるためには必要であるし、図書館の評価についても、整備したあとに「どう変化していくか」「どう充実していくか」を考える重要な指標となるので、ぜひ準備していただきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館の評価の中に、図書館協議会について触れられているが、平野委員どうか。

(平野小月 委員)

- ・例年2回開催のところ、今年度は図書館協議会を3回開催した。協議会では、委員それぞれが多方面に、かつ長期的な目線で発言をしていますが、事務局がすぐ基本構想へ反映してくれて、感謝している。
- ・本日の策定委員会の直前に行われた図書館協議会で、英語などの用語に関する意見が出たが、すぐに索引が追加されていた。行政の特別な言葉や工事に関する専門用語など、一般の人では調べないと分からないことも多いので、配慮されていて良いと思う。

(山際史子 委員)

- ・地域資料の活用に関連した話題だが、2025年1月に常滑市で鳥インフルエンザが発生した。周辺では出荷や移動ができず、養鶏農家が危機的な状況に陥っていた。
- ・地域で起こった問題なのに、地域にある情報の拠点である図書館が何もできなかったことが、後悔として残っている。
- ・鳥インフルエンザが、市ではなく県の管轄だと当時聞いたが、例えば市民や農家の方の不安をなくすために、正確な情報を提供して学習したり、何らかのサービスを提供したりできたのではないかな。
- ・地域資料は紙媒体だけでなく、データも非常に重要になってくるのでお話をさせていただいた。

(豊田雄二郎 委員)

- ・山際委員の発言に関連して、能登半島地震の後、被災地にある図書館では、復旧・復興や、心のケアに関する資料を集中的に集めていたと

思うので、それらが参考になるのでは。

(豊田雄二郎 委員)

- ・基本構想全体に対する感想となるが、初めは、基本構想には、結論を書くべきではないかと思っていた、しかし、これだけの委員の意見を一つにまとめるのは非常に難しい。また、理想の図書館像とは言いながら、読みようによっては代替案的に読み取れる部分もあるのだが、丁寧な言葉で慎重に「必ずしもこれは結論ではない」という意味合いが書かれているのでこの形で良いのではと、今は納得している。
- ・また文面の端々から「今やれることをやっていこう」という熱意が伝わってくるのも良いと思う。

(赤尾恵子 委員)

- ・連絡便の体制に記載のある、本が届くサービスについて、子供は、自分だけのために本が届くのはすごく嬉しいし、他の子もそれを見て羨ましいと思うのではないか。
- ・本を届けることで、接点生まれ、それがコミュニケーションに繋がるのも非常に理想的だと思う。

(中井明子 委員)

- ・例えば、鬼崎中学校では、学校運営協議会の方が図書の貸出を協力してやっている。地域の人材をいかに取り入れ、活躍してもらおうかということは、今後、とても重要になってくると思う。

策定委員会からの提言（第3部－第5章）

(山際史子 委員)

- ・3点目について、中央館の整備が決まり完成するまでの話なのか、中央館が整備されてからの話なのか、わかりにくいように感じる。

(事務局)

- ・事務局としては、中央館が整備された後であっても、当面の間は、現在の青海本館と南陵分館を公民館図書室として維持すべきだという意図で書いた。
- ・当面の間としたのは、青海地区と南陵地区は、今後、人口が半減すると推計されており、その際には、サービスポイントとする議論も必要になると考えたためである。
- ・ただ、発言のとおり、どちらにも取れてしまう恐れがあるので、少し文章を修正したいと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・青海本館と南陵分館をサービスポイントとすることについては、久田委員からも意見があったと思うがどうか。

(久田博司 委員)

- ・コスト面を考えた時の意見として、発言したもので、基本的な機能を中央館に集約する一方で、利便性を考え、予約の受取や返却機能は存続させる必要があると考えた。提言の内容は、分館の扱いについて、少し含みがある表現になっているのは、気になるところである。

(山田朝夫 委員長)

- ・分館については、行政の立場では、非常に悩ましいところである。
- ・委員会では、中央館の内容がメインとなり、分館の取扱いについてはあまり議論がなされなかった。事務局で修正するとのことだったが、他の委員で何か意見はあるか。

(中井孝幸 委員)

- ・何度か発言したが、日常生活圏、具体的には中学校区ごとに、何らかの図書館サービスが受けられる場所が必要だと思っている。
- ・今、検討しているのは、「常滑市立図書館」基本構想なので、新しい中央館が整備された後でも、地域で図書館サービスを受けられる場所は残し、地域の図書館を繋いだ、常滑市全体の図書館サービスを今後も考えていってほしい。

(土方宗広 副委員長)

- ・分かりやすい文章に直していただいたので、これなら市民の方もすんなり理解できると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・それでは、若干の修正はあるが、事務局案をもって、基本構想とさせていただくことで、よろしいか。

(委員全員)

- ・異議なし

(2) 各委員のコメントについて

中井孝幸 委員

- ・図書館は「記憶の倉庫」であると思っており、それを強く感じさせられたのが、東日本大震災の時である。南三陸町などでは、地域の文化に関する資料をはじめ、全てが流されて、何もなくなってしまった

が、図書館や市民の方が中心となり、残っているものを集めて、もう一度ここから始めていこうと努力している。

- ・近年では、賑わいの創出なども期待されているが、地域に住む市民一人一人が抱えている、小さな問題から大きな問題まで、それを解決するために使ってもらえるのが図書館であり、それを支えるのも図書館の役目である。
- ・策定委員会を始めて1年近くが経ち、建設コストも上がり続けていることを受けて、どうしようかという雰囲気になっていると感じている。しかし、自分としては、熱くなった気持ちはそのままに「鉄は熱いうちに打て」と思っており、整備時期を遅らせたとしても、この先、建設物価が下がることはなく、上がっていく一方であるので、決断するなら早い方が良い。
- ・流れを止めずに、少しでも前に進んでいくためにも、理想の姿を掲げてはいるが、もう少し規模を小さくしたり、蔵書冊数の目標を少し下げたり、将来の増築を前提とした工夫、あるいは複合的な機能とすることなどを考えていっても良いと思っている。
- ・図書館は「成長する有機体」と言われており、整備したら終わりではなく、そこからどんどんと色々な活動が始まっていく。コメントにも書いたが、図書館整備の種を撒かなければ、芽吹くこともないので、まずは、一歩でも前に進んでいただきたい。

豊田雄二郎 委員

- ・今回、基本構想策定委員会に参加し、図書館は決してハコモノ行政ではないというのが、自分の結論である。
- ・単に建物を作るという意味だけではなく「新しい図書館を作る」、とりわけ常滑市においては「図書館を取り戻す」、その過程が、市民の政治や行政への参加を促す住民自治の実践の場であり、市民が自分たちの誇りを取り戻す、シビックプライドの醸成に繋がると信じている。
- ・図書館は知のインフラではあるが、教育や生涯学習の拠点であるだけでなく、子供から高齢者まで誰もが過ごせる場所となり、市民活動を始めるきっかけや拠点にもなり得る。さらに防災や地域のコミュニティ作りなど、あらゆる言ってもよい行政の施策と結びつくことで、その価値を二重にも三重にも高める可能性がある。
- ・自分自身、常滑で生まれ育ち、新聞記者として海外赴任で常滑を離れたときもあるが、「自分の知らない世界を知りたい」という知的好奇心を育ててくれたという意味で、かつてあった図書館が果たしてくれた役割は本当に大きかったと思うし、庭瀬ゆり氏、原祐三氏はじめ

図書館を整備してくれた先 人たちには大変感謝している。

- ・6年前に常滑市に戻ってきたが、子育て世代、あるいはUターンを考えている人たちに、この町に移住してくださいと言えるだろうか。自前の図書館がないことを本当に寂しく思っている。
- ・具体的な提案となるが、誰もがお世話になったことのある市民病院の跡地を公園として整備する。予算の問題もあるので、増築を前提として、はじめは1,500㎡位で小さく図書館を作り、グリーンを頻繁に乗入れ、キッチンカーやマルシェなどを開催したり、盛んになっているドローンサッカーなど芝生広場を市民に開放してはどうだろうか。
- ・また、防災拠点として、避難物資の備蓄倉庫を設けたり、災害時用のトイレトレーラーやトレーラーハウスを常駐させておいて、キャンプのように仮設避難所の設営訓練や避難生活の体験をするといった防災上の視点、最近注目されているペロブスカイト太陽電池をつけるなど脱炭素の視点、海沿いや、やきもの散歩道まで回遊性のあるルートを設けることなども考え、こうした政策と絡み合わせることで、補助金や交付金を取得したい。
- ・最近の若い世代は、やりがいや地域貢献・社会貢献というものを重視しているという報告がある。自分自身の経験からも、移住者がその街に魅力を感じて根付いてくれるためには、行政がその人たちのために何かを整えるというよりは、そこに居場所があるか、移住者や若者が役割を感じられるかどうかだと思う。
- ・幸いといっちは何だが、常滑市では、図書館を一から作ることができるので、そこに移住者や若者の声を反映させることによって、彼らにやりがいをもってもらうことができるのではないかな。

井村美里 委員

- ・市民ワークショップの統括ファシリテータをした経緯でこの場にいるが、ワークショップでは参加者が、互いの意見に耳を傾け、時には考えを変えながら、財政や他市事例を学んで、多角的な視点をもって、図書館に積極的に関わろうという姿勢が印象に残っている。
- ・策定委員会では、理想の図書館を描いて、みんなでそれを追求してきたが、建設費の高騰や財政の負担をどう考えるのかという所で、どうしても立ち止まってしまう。
- ・自分自身、建築の仕事をしてはいるものの、ハードの整備だけに重きを置いてはおらず、人がどう活動して、作ったものがどう動いていくのかが重要だと思っている。そのため、自分の意見としては、商業施設のテナントとして入り、建設費や維持管理費を抑えつつ、テナント

として得られる恩恵を受け入れ、新たな層を呼び込みたいと考えている。

- ・今回、基本構想で素敵だなと思っているのは、「何々したい」という一人一人の主体的な意思を基本方針で言葉にしている点である。個人の活動や挑戦を支える基盤や「ここから始まっていく」「こういう場所にしていって」そういった思いが込められている。
- ・図書館は、そこにあるだけでも、暮らしの質や文化の厚みが時間とともに加わっていく場所だと思う。そして今の常滑市では、そこに、図書館に主体的に関わろうという市民が多くいる。こういった人たちの存在は財産であり、図書館が大きく成熟していくきっかけであるので、今のこのタイミングを逃さず、止まらず進んでいくというのが非常に大切である。
- ・基本構想にも、運用面のことが記載されているが、図書館で何か活動をしたい、本に親しむ場を作りたいと思っている人たちの活動を支えるなど、図書館ができるまでの間に「市民の力が図書館の力になる」そんな取組が進んでいくといいなと思う。

山際史子 委員

- ・図書館長として、図書館が必要だという市民の思いがあることは、本当に励みになる。基本構想では、財政の課題もあり、結論に至らなかったが、コメントには、図書館が建つまでの間にすべきことを書かせていただいた。
- ・一つ目は、財源と体制の整備。基金の計画的な積立や補助金情報の収集などを書いている。二つ目は、新館が完成するまでの間、常滑地区と鬼崎地区の市民の利用場所の確保が必要であること。そして、市民の意見を継続的に吸い上げていくことの重要性を書いている。三つ目は、地域資料のデジタル化や電子資料の拡充。四つ目は、学校図書館のネットワーク構築や学校司書の配置などで、これらは、新しい図書館に限らず、始められるものから進めていきたい。五つ目は、他施設との複合化や図書館空間の検討である。
- ・これらの取組は、新しい図書館への機運を高め、市民が誇りを持てる図書館作りに繋がる。市民の思いと職員の努力が実を結ぶことを祈ってコメントを書かせていただいた。
- ・今の常滑市の状況では、休みが一緒に、車を出してくれて、子供を図書館に連れて行かなければという親の子供でないと図書館には来られない。そんな恵まれた子供がクラスに果たして何人いるのだろうか。親が、仕事が忙しくて構ってあげられない、生活するのに精いっぱいであるとか、中にはヤングケアラーであったり、虐待を受けてい

る子供もいるかもしれない。そんな子供たちでも、学校にさえ行けば、図書館があって、本があって、そこに自分を評価しないフラットな立場の人がいる、それがどれだけ子供たちにとって、生きる力となるかを想像してみてほしい。

- ・以前、学校で読むことを教えるというのは、泳ぎ方を知ること似ていると発言した。泳ぎ方を教えても、その子がプロスイマーになるには限らないし、水と全く関係のない地域で暮らすかもしれないが、例えば、旅行先で船が沈没したとき、泳ぎ方を知ってさえいれば命が救われるかもしれない。
- ・子供たちがこれから長い人生を生きていく中で、家族が病気になったとき、仕事を失ったとき、あるいは大怪我をしたときや災害にあったときも同じことが言えると思っていて、どこに正確な情報が書いてあるのか、どこから必要な情報を取ってくるのか、どうやって行間を読むのか、専門用語を解読するためにはどうしたら良いのかなど、そういったことを中学校までにしっかり学ぶことが必要である。そのためにも学校図書館の改善について、ぜひご一考いただきたい。

平野小月 委員

- ・旧図書館の様子をよく見ていたので、利用者の数もなんとなく把握していたし、図書館協議会の委員でもあるため、常滑市の図書館の貸出冊数や利用率が決して高くないことも知っていただけに、市民ワークショップに本当にたくさんの方が参加したいと思ってくれたことに非常に驚いた。
- ・前職のこともあって、子供の教育や成長に非常に興味があり、学校でも絵本の読み聞かせをしているが、やはり子供の成長段階において、本というものが不可欠だと感じている。文章から読み取る世界の想像力などは、今後生きていくうえで、自分自身の人生を豊かにしてくれるので、ぜひ子供の頃から、身近に本に触れられる環境があってほしいと強く願っている。
- ・市民ワークショップの中では、もちろん図書館が欲しいけれども、多くの方が、図書館を含んだ居場所とか環境を求めているように感じた。それもあり、自分の意見としては、大きくなくても良いので、複合的な施設の中で色々な事ができる、そんな図書館だといいなと思っている。
- ・魅力的な図書館を含んだ施設があれば、人口も増えていくのではと思うところもあり、常滑市で子育てをしたいと思って働き手の世代が移住してきてくれる、そんな施設を期待している。
- ・なお、コメントには、自分の意見に加えて、後半に、図書館協議会で

出た意見などもまとめさせていただいた。

中井明子 委員

- ・教育委員会で働いており、子供たちがいかに本を読まないか、図書館に行かないかを身に染みてわかっているだけに、正直なところ、きちんとした図書館が出来たとしても、果たして子供たちは行くのだろうかと思っていた。また大人でさえ本を読まない人がいる中で、どう子供たちに本を読むよう働きかけをすればよいのかとずっと疑問に思っていた。
- ・しかし、策定委員会やワークショップを通じて、本との出会いの先に大きな効果が期待されていて、それが子供たちの更なる成長に繋がりに、大きな可能性が広がり、その先もずっと繋がっていくことが分かった時に、図書館が出会いの場であることの素晴らしさを知った。
- ・地域の中に図書館があり、子供たちが本と出会うことで、大きな広い繋がりが生まれることを期待している。

赤尾恵子 委員

- ・前回の委員会で、財政が厳しい話されていたこともあり、大きな予算をかけることに少しネガティブになってしまった。
- ・経済格差が大きくなって、教育面でも差が広がっている中で、図書館より先に、差が埋まるような施策にお金をかけるべきではないか、本は少ないけど青海本館を最大限活用するのではどうか、もういっその事、近くの図書館や書店に通えばいいのではないかなど色々なことを考えてしまったので、少し感情的なコメントになってしまったかもしれない。
- ・ただ、今日も委員の皆さんとこうして集まって話していると、図書館があることで、みんなが集まったりと、新しくできる図書館にとってもわくわくしてしまう。今後、市がどのように進めていくにしても難産になるとは思いますが、その先の未来を非常に期待している。

久田博司 委員

- ・市民ワークショップについての一通のハガキが送られてきて、それをきっかけに参加したが、テーマが図書館でなかったら、参加していなかったと思う。

- ・市民ワークショップを通じて、みなさんの熱意が伝わってきたし、今日の委員会でも度々出ていた「出会い」というところでは、自分も、今まで出会ったことがない人たちと意見交換したり、交流したりする中で、新しい気づきがあったり、自分の成長に繋がる取組もあった。今後、計画が進む中で、そんなインフラ整備になることを期待してコメントを書いた。
- ・30年間で182億円という、金額だけを見ると非常に大きな事業であることは理解しているが、こんな時代であるからこそ、将来に対する投資は積極的にしていただきたいというのが、まず自分の考えの前提にある。
- ・図書館の果たすべき役割は、交流の場であったり、知の拠点であったりと多くあると思うが、それを支えているのは、やはり人材であるので、人材育成ということが常滑市の図書館にとって、不可欠であると思う。また交流ということでは、特に空港もあるので、海外からこの地に来るといふ環境もあるだろうし、先ほどの豊田委員の提案のような施設が駅前にあれば、その投資効果は図書館だけに留まらないだろう。
- ・一方で、財政を無視した整備や、本来すべきサービスが削られていくことは、市民として長く常滑市に住居を構えていく者としては、大変不安であるので、複合化も含め、コストを抑制するような施策を考えていただきたい。
- ・182億円を30年で割ると年間6億円にもなる。しかし、先ほどのような交流によって生じるような金額に置き換えられない価値であったり、整備しないことで発生する老朽化した施設にかかる費用、また整備しないことで生まれてこない付加価値というところの機会損失であったりなど、全てを勘案したうえで、年間6億円というコストを評価していただきたい。
- ・コメントの最後にも書いたが、ワークショップからの経緯を考えても、ここで計画を止めてしまうのは非常に勿体ないし、ある意味、不誠実ではないかと考える。お金がないからといって、長期間に渡って、検討だけが続いていくことは好ましくないのだから、短期間のうちに整備の手法であったり、規模を判断してまとめていただき、できれば整備を進める方向で動いていくことを期待している。

土方宗広 副委員長

- ・市民ワークショップや基本構想策定委員会に参加して、自分自身も大変勉強した。そして今回、その結果として、基本構想がまとまり、市民が目にするようになるが、その後に、民意を問う機会を与えるべ

きだと考えている。

- ・この委員会の委員の意見や、市民ワークショップの50人の意見を参考として、市長が判断するというのもいいかもしれないが、住民自治の実践の一つとして、全ての市民が参加する機会を与えても良いのではないかと。豊橋市で230億円のアリーナ建設の是非を問う住民投票があったが、それを行ったことで、決断ができたと思う。
- ・常滑市ではアンケートのような形で良いと思うので、5万8千人のうち例えば60%という結果となったが、統計的に考えると総意として考えられるので、それをもとにして決断をする。そのような機会をぜひ考えていただきたい。

山田朝夫 委員長

- ・自分のコメントだけ、他の委員に比べて多くなってしまった。もともと、委員長になって欲しいと依頼があった時、委員長になると自分の意見が言えなくなってしまうので、本当は断りたかった。それでも事務局に言われてかなり削ったので、ご容赦いただきたい。
- ・皆さんの意見を聞いて、色々と考えた結果、結局9年前の考えに戻ってしまった。この会場である市庁舎を建てる際に、ホール、公民館、図書館との合築を提案したのは自分である。結局は、文化会館の利用者からの署名が出され、実現できなかった。蛇足になるが、安城厚生病院の跡地に何を作るか議論があった時に、図書館を勧めたのも、当時、安城市の副市長をしていた自分であり、図書館については、思い入れがとても強いことを先に話しておく。
- ・基本構想案としてまとめた理想の図書館をきちんと機能させていくためには、特に公民館、それから市役所と近くにある方が良い。それは、課題解決は、図書館だけでは難しいからである。しかしそうすると、文化会館をどうするのかという問題が出て、お金も時間もかなりかかってしまう。
- ・そこで、時間がかかる間にお金を貯めつつ、その間の繋ぎをどうするのかを考えた結果、もしスペースを借りられればではあるが、商業施設に入っておくのが良いと考えた。
- ・市民ワークショップのファシリテータをしていた安城市の職員で、アンフォーレを整備した担当者の一人と話す機会があった。彼は、他の商業施設であれば話は別だが、イオンであれば、絶対入ると言っていた。彼の言葉の中でなるほどと思ったのが、イオンのテイストと、市民が図書館に求めている居場所であったりという姿は、非常に似ていて親和性がある。トイレや警備などのコストも減らせるし、広大な駐車場も大きなポイントとなる。アンフォーレの駐車場は非常に

狭く、隣にあるスーパーマーケットも最近潰れてしまった。図書館と潰れてしまったスーパーマーケット、また商店街とは親和性がなく、あの地域では、アンフォーレの一人勝ちになっており、これが自分たちが目指していた姿とは違うのではないかと saying いた。

- ・それでもやはり、図書館への思いを消してはいけないので、理想の図書館ができるまでの暫定措置として、イオンと交渉して入居しても良いのではないかと個人的に思っている。立場が副市長なので、コメントに残すべきか迷ったのだが、山田朝夫個人の意見として書かせていただいた。

3 その他

(1) 市長あいさつ

(伊藤辰矢 市長)

- ・当初、5回の開催予定のところ、8回の開催となり、出席いただいた委員の方に、お礼を申し上げたい。
- ・全ての回ではないが、市民ワークショップと基本構想策定委員会に参加し、議論を聞き、皆さんが図書館に期待するものというのが、市の思っていた機能を超え、色々な可能性があることを示していただいた。先ほどある委員の方からの意見でもあったが、この過程が、市民の力、常滑市の力になっていくのだと改めて感じた。
- ・委員会の中では、常滑市の財政のこともつつみ隠さず説明したので、それにより萎縮させてしまい、理想的な図書館を語り辛い場となってしまうたら申し訳ないが、「まち作り」というものが、それも含めて考えていかなければならないことを知っていただき、それを乗り越えてどうしたいかという意見を聞いたのは、大変ありがたいと感じた。
- ・市民ワークショップの最後のコメントで、市が考えていた方向と少し違う方向でメンバーのみなさんの意見があると思い、発言したところ、それが独り歩きしてしまったが、策定委員会も含め、改めて、単独整備する市の方針に対して、それだけでは足りないことが分かった。
- ・本を借りる場所だけでなく、個人にとっての居場所であり、交流することで出会いが生まれて、そこから何かが始まる場所であり、また課題の解決ができるまち作りの基盤だということを教えていただいた。
- ・そしてそれらの機能が、図書館を軸に大きな集合体となっていくということを改めて知ることができ、現在は単独整備ということには

なっているが、そうではない可能性も示していただいたのが、この基本構想だと思っている。

- ・もちろん全てを叶える訳にはいかないが、例えば単純にカフェがある、ないという話ではなく、図書館が何をする場所なのかということを考え、基本構想が目指すべき方向に向かって、しっかりと考えていければと思っている。
- ・やや幅のある基本構想であり、市が決断する時は、ある程度その幅を狭めていかなければならないが、委員会で出していただいた基本構想の軸がぶれないような図書館整備というのを、今後しっかり進めていければと思っている。
- ・理想を叶えるためには、多少、時間とお金がかかってしまうが、一方で「早く」という意見も根強くある。委員の意見の中でも、将来への投資であって、数十年後に何を残すのかということも忘れてはいけないという言葉もあった。
- ・これからある程度の方向性を見出していき、図書館に対するみなさんの熱が冷めないように、議論を加速し続けなければならないなど感じている。
- ・最後になるが、図書館の整備を進めるにはまだ議論が足りないこともあるが、いただいた基本構想を大切にしていきたいと思っている。8回に渡る議論、本当に感謝申し上げる。

(2) 質疑応答

(山田朝夫 委員長)

- ・これで、この基本構想策定委員会の議事も最後になるが、委員から何か質問はあるか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・令和8年度の予算案に、460万円の予算がついていたが、どのようなアクションをしようと思っているのか確認したい。

(伊藤辰矢 市長)

- ・まだ結論が出ていない段階で、大きな予算を付けることはおかしいと考えている。
- ・先ほど、話題のあった複合化を検討することになるなら、何を複合化するかをまず考える必要がある。特に、市として、全ての文化施設を管理していかなければならない中では、市民文化会館や中央公民館の問題がある。その方向性が、来年度中に見えればすぐに動けるのだが、まずはその結論を待つ可能性もある。
- ・ただ一方で、「早く」という声があるのも事実なので、方向性が決ま

れば、必要な財源を補正予算などで確保していく。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館は大きく産んで育てていくことが多く、小さく産んで大きく育てるというものは今のところない。足らなくなっても増築することはあるが、はじめから考えて作っている図書館はない。
- ・財源がない中でも、こういう風に整備していけば実現できるという全国初の「常滑モデル」をぜひ作って、進めていただきたい。

(伊藤辰矢 市長)

- ・全国にまだないというのと、そういった整備方法に対する財政措置がなく、大きくしていく費用を全て市が賄わなければならないのではと行政としては心配してしまう。何らかの補助金などに乗るように整備を進めていくのが財政的には良いので、ご提案いただいた案にそうものがないか調べたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・例えば、東日本大震災のときのように、人口がどんどん増えていく見込みで計画を立てたが、結果、市民が戻って来なかったという、人口が減少する局面での失敗もあった。新しいモデルとして、発想を変えることも必要だと思うので、ぜひ検討いただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・先日、ボートレースについて調べる機会があったが、70年前に競艇場を作ってから1,200億円が市の一般会計に繰り入れられた。1年平均で10億円以上入ったお金はどこにいったのか。都市戦略、都市経営というものを慎重にやっていただきたいと感じている。

(山田朝夫 委員長)

- ・ご発言のとおりで、先人たちが、どうしてもっと貯金してこなかったのかと思ってはいるが、過ぎてしまったことなので、これからどうしてかをしっかり考えたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・他に質問がないようなので、これで基本構想策定委員会を終わりたいと思う。6月から10月にかけて、委員の方には大変お世話になった。拙い進行で申し訳なかった。
- ・資料も直前の送付が多く、大変申し訳なかったが、通常、他の自治体ではコンサルタントなどに依頼するところ、常滑市では、事務局が全て準備していたので、ご理解いただけたらと思う。
- ・少し修正が残っているが、完成した基本構想は、自分から市長の方へときちんと届けさせていただき、この基本構想の内容が次に繋がる

よう、具体的な事業の姿を考えていきたい。

4 閉 会

- ・委員会で策定した基本構想については、後日、製本したものを送付させていただきます。